

第 2 回 美里町総合計画審議会産業振興部会 議事録

年 月 日	平成 2 7 年 1 0 月 1 日 (日)
場 所	美里町庁舎 3 階会議室
審 議 開 始 時 間	午後 3 時 1 0 分
出 席 委 員	西川正純委員、日塔明広委員、渡邊新美委員、阿部雅良委員、今野良寿委員、渡部直喜委員 大友雅志委員
欠 席 委 員	涌井良宣委員、
審 議 終 了 時 間	午後 4 時 2 4 分

審議開始

- 午後 3 時 1 0 分 開始 -

協議

発言者) 内容

佐藤産業振興課長 産業振興部会を始めたいと思います。
前回第 1 回部会を欠席された渡部委員さんが本日出席されています。

渡部委員 渡部です。よろしくお願いします。

佐藤産業振興課長 渡邊部会長より挨拶をいただきます。

渡邊部会長 全体会ご苦労さまでございました。全体会で 1 時間半ほど審議いただきましたが、時間をかければ良いというものばかりではございません。慎重に研究し審議していきたいと思いますので、よろしくお願いします。
それでは次第に基づき進めてまいります。部会長の私と部会長代理の阿部委員さんとで進行させていただきます。
事務局説明をお願いします。

佐藤産業振興課長 第 1 回の部会の際に、議事録署名人の指名をしておりませんでしたので、部会長より会議録署名人の指名をして頂きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

渡邊部会長 それでは西川正純委員さんと日塔明広委員さんに署名人をお願いします。
次第 5 番の説明について事務局をお願いします。

佐藤産業振興課長 協議資料を産業振興課で作成しております。委員の皆様には事前にお送りしておりますので、この資料について産業振興課の産業活性化戦略室長の小林よりご説明いたします。

- 小林室長 この４月から産業振興課の産業活性化戦略室長を担当しております小林と申します。よろしくお願いいいたします。
- ～産業活性化施策討議要綱について説明～
- 渡邉部会長 小林室長から説明がありましたが、一つひとつ見ると、もっともな話であると感じます。農業の法人化の問題や、商工業の分野でも企業を興す人が少ないという現状があります。人材を育てるというのが重要だと思います。
- 阿部専務さん、ご意見ございますか。
- 阿部委員 今説明いただいた資料の６ページに「美里版ビジネスモデルの視点イメージ」があるんですが、このイメージが独り歩きしてしまうことが心配なのでご説明いたしますが、上から６番目に「地域経済」があります。農業法人は地域外需要で家族経営は地域内需要とありますが、こういった区分け自体の意味は多分ないと思うんですよ。私も農業生産法人をやっていますが、地域内需要・地域外需要の両方やらないと法人が回りません。ですので、この区分け自体どうなのかなというのが第一点です。それから「農業形態」がございまして、農業生産法人は土地利用型水稻中心となっておりますが、水稻中心というのは昔の話ですので、このイメージについてはないと判断しております。それから全般的に見て思うのは、農商工が全面的に出ていますが、農商工金という金融機関の位置づけをきちんとやらないといけない。また産学官ですね。せっかく美里町は宮城大学と連携しているし、小牛田農林高等学校もありますので、美里町で人材を育成する塾を作って、美里町で先進的に動いている人材と宮城大学の先生をお呼びして、人材を育成する機関を活性化施設に入れる仕組みを作った方がいいと考えています。それから鉄道がございしますが、これは美里町だけのことではありません。例えばＳＬが走る際に、近隣市町村と連携し地域連携という目線でイメージを描いて、現在もいろいろイベントをやっていますが、交流人口を増やすというような全体的なイメージを作った方がいいのかなとご提案をさせていただきました。
- 今野委員 資料についてですが、総合計画案をもとに議論を進めるのか、先ほど説明があった産業活性化施策討議要綱をもとに審議するのかご指示いただきたいと思います。
- 佐藤産業振興課長 基本的には町から諮問されていますのは総合計画案ですので、こちらを中心にご議論いただくこととなります。産業活性化施策討議要綱は総合計画案を作成するための資料という形になります。
- 阿部委員 「行政」と「町民」という括りが強すぎますよね。パートナーシップという考えで、行政も本気になって地域を良くしていくんだという姿勢、いわゆる協働という言葉の意味をきちんと入れていくことで、地方創生の意味が出てくると思いますので提案させていただきます。
- 今野委員 一点質問ですが、資料を見ていくとスローガンの、抽象的な表現が多くあります。全てごもっともな話ではありますが、具体的な推進策と、その主体が不明な点がたくさんあります。今回の総合計画の作成は町がやりますが、実際行動するのは住民や事業者等が主体となってやっていくということだと思っています。そうしたときに行政と住民、事業者との繋がりがどうなるのかお聞きしたいと思います。例えば集落営農の法人化により大規模農業を推進していく一つのトリガーとするお話がありますが、この場合に大規模法人というのはどのようなものをいうのか、農業生産法人もあるし、その他の法人もあります。もう少し具体性が無いと策定した計画が実行に結びついていかな

いのではないのでしょうか。この計画についてどの辺までブレイクダウンしていく予定なのか、ちょっと分かりにくいですね。

小林室長

方法論についてなんですが、これだけでは何をやるのか見えてきませんので、これは同時並行で事務方と詰めていこうと考えています。総合計画で方向性をお示しいただいて、その後に目標値の設定がございます。方向性、目標が決まれば取るべき手段は自ずと出てくると思いますので、こういった形で事業を推進していくかというのは実施計画という形で示しながら展開していきたいと考えております。

大規模生産法人のイメージなんですが、現在40弱の集落営農組織がございまして、この組織で概ね8割9割の農業生産を担っているという状況であります。スケールメリットを活かしていく中で、最低限必要な農業生産規模を仮に100ヘクタールとしたときに、例えば施設園芸等は別ですが、土地利用型で水稻をしたり、今までのように大豆・麦を生産していくとなった場合に、概ね100ヘクタールを下回る規模であれば法人化してもあまりメリットがないという統計データも出ております。現行の集落の中に集落営農組織がございまして、また集落の課題の一つとして、農業を引退されその後継者がいなくて、他に頼みたくても個別の認定農業者の方が一杯一杯の状態でお断りしなければいけないというケースもございまして。そういった意味でも、中長期的に見た場合に受け皿をきちんと作っていくことが必要であるという考えを持っておりまして、私どもの中では今後5年で5法人と目標を設定させていただいております。

渡邉部会長

只今事務局から説明がありました。その他にもご意見等ございましたら、忌憚のないご意見をお願いしたいと思っております。

日塔委員

「ASAHI」については別の検討委員会で検討しているということでしたが、最終的には総合計画と整合性が取れないといけませんが、その整合性はどのようにとるのですか。

小林室長

「ASAHI」の討議要綱はあくまでも検討資料でございまして、一方で活性化拠点施設の整備基本計画ということで現在進行しており、こちらの基本計画の検討委員会にも同じようにこの資料を参考提示させていただいております。事務局は同じ産業振興課ですので、こちらの審議会で出た議論とあちらの議論を常に調整しながら進めていきたいと考えておりました。

日塔委員

総合計画の産業関係の部分を見たのですが、美里版ビジネスモデルの構築などが出てくるのですが、総合計画では美里版ビジネスモデルというのは見えてこなかったのですが、今日の説明でその繋がりは見えてきました。6次産業化について一般的には、一法人の中で生産・加工・販売までやっていく形を6次産業化という言い方をすると思うのですが、これは町内で6次化を完結するという考えでよろしいのでしょうか。

小林室長

6次化については、皆様のご意見を参考にしながら進めていきたいと考えておりますが、現実的にすぐに6次化という事にはならないと考えておりました。といいますのは、リスクが高くなりますし、これまで生産に携わってきた方々が製造や流通の知識を習得するとなると、それなりのハードルになると考えておりましたので、最初は連携から入っていききたいと考えております。町内に食品製造会社や卸業をしている方ですとか、あるいはカット野菜工場も2か所ございますが、これまでこれらを繋ぐネットワークがございましたので、まずはその仕組みづくりをして、6次

産業化というよりは、農商工連携ということに視点を置いて、育成していくことが必要であると考えております。それがある程度成果が出てきたときに、現在普及センターさんに協力いただいている梨のピューレですとか、そういったところでの商品開発や実績を一つひとつ積み重ねていくことが非常に大切であると考えております。その次の段階で6次産業化という部分で大きく成長していただければと考えておりました。

今野委員

6次化についてですが、現実化を考えた場合、大変難しい課題であります。これをやりながら、大企業とのジョイントですね。企業誘致との関連もありますが、検討すべきではないかと考えております。生産と加工と販売を一緒にやるという言葉では簡単ですが、加工・販売といっても大変難しい課題であります。これからは農業も海外を展望した販売を考えていかないと、要するに付加価値が無いと農業経営はできないと考えております。人、資金調達能力、経営ノウハウを考えた場合、大企業はそれを持っているんですね。その力を活用すべきだと考えています。大企業を誘致するといっても、何をやるか、または地域でのその下準備が必要であるので簡単な話ではないのですが、これは5年計画ですが、その5年の間に1つやるという気持ちで、町が主体となりプロジェクトチームを作って行動すべきだと思っております。企業誘致を絡めた6次化ですね。大企業を誘致するといっても、何をやるかということですが、ただ来て教えてくださいというのはだめですから、お互いにリスクを取らなくてはいけないといことがありますね。そうした場合に、例えばその資本をですね、農業生産法人であれば、今決められている50%未満ですか、それでリスクをお互いに取って、それで前向きに行くというような意識改革も農業にとっては大変重要なことだと考えています。

渡邉部会長

西川先生、どうでしょうか。

西川委員

方向性はこれでいいと思うのですが、前回の5年間の評価をしたときと方向性が基本的にあまり変わっていないですね。それを踏襲しているだけという感じなんですよ。それは全然問題はないのですが、具体的に何をやるかといった事を決めていかないと、5年後にまた同じ計画が出てくることになりますので、前の5か年の評価の時も企業誘致や6次産業化の話が出ていて、今回もまた同じなんですよ。ここで決めることではないかもしれませんが、何をやるかということを早く決めないと駄目だと思います。町としてどこに特徴を持たせるか、総花的なのは分かるのですが、どこかに突破口を開いていかないと駄目なので、そこを何とか決めていただきたいと思っております。具体的に何をやるかということですね。

阿部委員

拠点施設ということ自体に意味を本当に明確にして、その本質をきちんと描けるかということ大切だと思うんですね。そうしたときこの拠点施設に農商工金連携に産学官を入れていく。ここに来ればこれがあるということを、全部あってはだめなんですよ。農業体験でも工業体験でも商業体験でもよいのですが、滞在型の活性化施設ですね。子供も誰でも来られる。そこでお金を使ってもらう。6次化で作った商品をそこで売っていくというストーリーが描けると思うんですね。そこは車が出入りできて鉄道との連携もよいというようなアクセスが良いという利便性、全部トータル的なイメージで美里町に行くとかそこまでは簡単に行けますというような、そこにいけば一泊二日でもいいよというようなイメージがこの中に描けることが出来ればよいと思います。

大友委員

2つほどお聞きしたいのですが、私は労働関係の担当ですので、総合計画案の103ページから

104ページにかけての部分ですが、これは基本的にハローワークの関係が中心になるのですが、103ページの一番下に宮城県の工業立地件数というのがあり、5千㎡以上の立地件数は23件とありますが、これは宮城県のことだと思いますが、美里町ではどうなのか分からなかったので教えていただきたいと思います。実は町民の方のアンケートをちょっとだけ見て感じたのが、若い方が働ける企業立地についての意見が結構ありました。地元の事業所の方、企業の方が努力して若い方が魅力を感じる事業所にしていくということで、町として今ある事業所をバックアップしていくことも必要であると考えています。以前コールセンターを誘致し、その企業が倒産し賃金不払い問題が発生し、労働基準監督署が賃金を立て替え払いするような、言い方が悪いけれどもブラック的な企業ですね。そのような企業に来てもらって人を集めても仕方がない。あくまで地道に頑張っている企業をバックアップして、魅力のある職場づくりをするような視点はないのか感じた部分があります。

もう一つは、政治的な話にも関わってくるのですが、今日役場の駐車場に入ってきて、「原発に頼らない」という看板が出ていましたが、ヨーロッパなどでも言われていることなのですが、農業、林業、畜産業も含めてなんですけども、今日のお話でエネルギーに関する地産地消の部分は無いようで、あのような看板を町として掲げているのであれば、今の時代それに共感を覚える方は結構いると思います。先ほどの農業、商業、食品加工業などの6次化も大事ですが、もう一つエネルギー面でも地産地消を選ぶような長期的な視点があればいいのかなと。二つ目は専門外の話で恐縮なんですけども、そのように感じました。

西川委員

以前の評価をしている時に思ったんですけども、町とJAさんの連携がどうも見えなかったんですよ。それぞれ独立してやっていて、協力しているのか、していないのかよく分からなかったので、もっと連携できる仕組みづくりをした方がよいと思っておりました。確かにJAさんは美里町だけでなく他の地域でも広く事業をされているので、そのへんは分かるのですが、やはりJAさんも町もお互いにもう少し協力し合えたらいいと感じましたが、その辺はどうなのでしょう。

阿部委員

JAというのは基本的にその地域にあるんですよね。大企業というのは儲からなければ撤退します。例えばエコープなりスタンドなりいろいろありますが、JAは基本的に赤字でも、そこにおいておけます。そうするとその住民の方々はそこで暮らせると。今回全中の方針でもっとJAは地域に入って行けと。私も大崎市の住民なので、大崎市の総合戦略会議の委員長をやっているんですけども、そこでJAも地域に関わっていきますよとお話をさせていただいています。実はJAにTAC (Team for Agricultural Coordination) という集落営農の法人化等をお手伝いする農協職員がおりますが、私はTLC (Team for Local Coordination) 要は農協職員が地域をコーディネートして、一緒にまちづくりをする職員を育てようと思っているんですよ。そういうことで町に関わっていきますのでよろしくお願いします。

渡邊部会長

商工会としても起業家を育てようとしていまして、仕事を興したいという人たちに資金援助をしております。現実として商工会の会員が増えております。震災後に下請けや、一人親方という言い方をしますが、従業員が一人二人しかいない方々に入ってきていただいて、会員数が増えております。ただ商売ですから、震災後の需要が減ってきたときにどうなるのか心配ではあります。商工会全体としては高齢化が大変進んでいます。

阿部委員

少子高齢化により60代の方が多いですよ。熟年の方々がビジネスをやっていくんだという

プランを作る、熟年に対する産業振興ですね。「葉っぱビジネス」というのがありますね。90代のお婆さんたちがパソコンを使ってやっていて、一人500万とか800万とか稼いでいます。葉っぱを取ってきて大阪の料亭に売っているんですよ。そこに若者が入ってきて町は栄えていますね。そういう意味で、美里町で若い人を入れて地方創生しようという考えもありますが、熟年の方々にその仕組みを作って、それを補うために例えばITやICTなどを入れて若者を取り込むという仕組みづくりも面白いのかなと思っています。

西川委員 本日に皆さん元気ですよ。

渡邉部会長 確かに高齢の方に仕事をお願いすると真剣にやるんですよ。退職後70代80代になると、手持無沙汰というか仕事がないんですよ。いろいろ活動している熟年の方々はパワーがありますよね。

小林室長 人口減少、高齢化により社会保障等は今後かなり厳しくなってきます。これは国だけではなく町も同じでございまして、70代でも現役でいる方も多く、私の父も70過ぎても農業やっております、そういう事を考えますと、今阿部専務さんからお話があったように、後期高齢のエリアに入った方でも、まだまだ現役でやれる方がいます。町内で言えば花野果市場などがいい例と思っています。地域のお年寄りが元気に生産物を作って現金収入を得る喜びをこの拠点施設で活かしていきたいと思っています。また、これは冒険的な部分もあるのですが、いわゆる子育て支援という部分でいいますと、子供にまだまだ手がかかる方々に、自分の家の庭先のハウスや畑などある方が結構いらっしゃいます。そういった若い奥様層にこれまでと違ったアプローチをしてですね、野菜作り教室などを開きながら、副収入を得ていただく仕組みも考えていければ、一方で大きく農業を展開する法人の方もいらっしゃれば、一方で、生涯現役で就農される方々といったところで、多様な人材育成といった濁った表現になってしまいましたが、そういったところでイメージさせていただきました。

阿部委員 それ農協がやらなければいけませんね。

今野委員 大豆の生産面積で宮城県が北海道に次いで2位ということですが、1位との差はどれ位ありますか。

小林室長 阿部専務さんの方がお詳しいと思いますが、実は1位と2位は凄い差があります。

今野委員 1位になることは不可能ですか。

阿部委員 不可能ですね。県内ではJA古川管内が多くなっています。

今野委員 ミヤギシロメという品種がありますが、奨励作付をしていると書いていますので、一つでも核になるような作物があって、これからも伸びていく要素があるとすれば、町とJAで、共同で推進し美里町を豊かにするといった核になるようなモノを探すべきだと思います。計画案には良いこと一杯書いてあるんですよ。何も文句がありません。しかしこれは今まで何年間もやってきたわけですから。現状を打破するには、これも大切ですが新しい事に取り組むことも必要であると思います。

阿部委員

今回の総合戦略と総合計画の中で、大切なのは選択と集中ですので、美里町は拠点施設に集中、農商工金産学官全て集中する。もっと言えば産業のシンクタンクをそこに作ってしまうと。そういったイメージで美里町のシンボルにするといったイメージでやれば、美里町は強いなあという感じを受けますよね。

今野委員

おっしゃるとおりだと思いますが、美里町に来てもらうことを考えた場合、かなり魅力があるものでないと、わざわざ美里町に来ませんよ。積極的に外へ出て施設の活用というものを具体的に進めていかないと、大変良い発想ではありますが、これは難しいだろうなと思っております。

阿部委員

三重県にある農業生産法人がございます。年商50億位だったかな。こちらは山の奥にあります
が、そこで稲を作ったり、ハムソーセージを作ったり、地ビールや温泉、レストランや農業体験を
やって人を集めているんですよ。そういった仕組みを作ってリピーターを取るんですね。箱だけ作
っても誰も来ないから。そこに物語があって体験があって、「充実したなあ」というものを作って
いけば、美里町も大きく変わるんじゃないかと思います。

今野委員

美里町の特色を出せるものが何か無いかなと考えております。

南郷地区にある花野果市場に２回ほど行きましたが、これからはあのようなイメージでは絶対だめだと思います。ダメな理由として２つ挙げると、例えば食品の品質管理ね。どうなってるんだろうと思いますよ。どこかのおばちゃんが作った何とか饅頭ですね、隣近所で顔が見えてる話であれば良いと思いますが、他から人を呼ぶといった場合はどうかと。今回の施設はそのようなものではないですね。人が集うというのは、集う何かが無ければいかんということですよね。１００万人の人が行き交う施設を想定しているようですが、平成３１年開業を目指していますね。それまでにしっかりと詰めて是非やってもらいたいなと思っております。

渡邊部会長

私たちも小さな商いをしてるんですけども、物を作っても施設を作っても客が来てくれないことにはどうにもなりませんから。一番は社員や技術をどうするか、地域との関わりもですね。アイデアを出していかないとだめですね。これからはずいぶんところに手が届くような仕事をしないと。

渡部さん、何かご意見は。

渡部委員

私は農業をやっているんですが、先ほどの高齢者に関するお話はとてもいいと思うのですが、根本的には、若い人たちの新規就農についてどうにかして欲しいと感じています。自分が農業にすんなり入れたのは、農業短大を出て、海外、国内研修に参加しました。それにはやはり国や県などの助成金や基金があってとても助かりました。そのようなことを町からお願いしたいのと、就農に際して、施設園芸するなら施設を建てる場合に無利子融資ですとかJ Aさんと一緒にやってもらいたいなと思います。

佐藤事務局長

皆さんお話しいただいたように我々もいろいろ考えているのですが、職員では気づきにくいこともあります。今日いろいろな方のお話を聞かせていただいて、今後の仕事に活かしていかなければならないと改めて感じました。

渡邊部会長

今日は今後の在り方等についてディスカッション的な将来に向けたお話しをして頂きました。
課長、このような感じでいいですか。

阿部委員 すいません、もう一点、実はわたし大崎市で地域づくりを１０年くらいやってきました。まちづくり協議会がございまして、鹿島台で会長をやり大崎市でも会長をやって気付いたのですが、地域づくりというのは、「よそ者」「馬鹿者」「若者」の３種がありまして、「よそ者」は現地の宝を見つけやすいんですね。地元にいる「馬鹿者」は情熱があり、「よし、やるぞ。」と人を引っ張るんですね。そして「若者」はそれについて実際に行動していく。いわゆるコミュニティービジネスという発想ですね。一人の百歩よりも百人の一步。こういった地域づくりをやったときに、例えば、ある工業の方が一人だけ勝ったとしてもだめなんですね。工業界として美里町内の工業をどう持っていくかという、全体として地域を底上げしていくことが重要です。そういった仕組みづくりを行政が本気になってパートナーシップという概念でこの地域を作っていく発想。いろいろな機関が連携して、リーダーシップを持った人をどうやって発掘していくかということも含めて、様々な機関が連携していく仕組みをこのプランに出せれば町は栄える気がしますよね。

渡邉部会長 そろそろ時間となりますが、他にお話しありますか。

日塔委員 一つ確認です。先ほど阿部委員さんからもビジネスモデルのお話があった「ASAHI」の６ページについてですが、農業形態の部分で水稻中心とありますが、農商工連携のところでカット野菜工場という話がありましたが、複合経営はどのようになっているのでしょうか。

小林室長 すみません。表現が悪かったのですけれども、今転作は進んだと言いましても中心となっているのはまだまだ水稻でございまして、その意味で水稻と書いたのですが、土地利用型で推進していくことを考えた場合、野菜の産地を作っていきたいという思いがありますので、当然それは入っているのですけれども、こういった表現で書いてしまって誤解を生んでしまいました。申し訳なかったと思っております。そういった意味で野菜の産地も形成していく中で、域内の農商工連携の中で例えばカット野菜工場と連携をしていくとかですね、そういった形も想定していかなくてはならないと思っております。

日塔委員 土地利用型作物中心という書き方はどうでしょう。

小林室長 そうですね、ただそう表現すると「コメはやらないのか」と逆にとられることもあるということもあり、表現がそのような形になってしまいました。

阿部委員 水稻は大事ですが「水稻中心」と書いてしまうとね。

佐藤産業振興課長 一点お願いなのですが、今回の会議録署名人につきまして選任をお願いします。

渡邉部会長 先ほど選任した署名人は・・・。

佐藤産業振興課長 先ほどは第１回の会議録署名人です。

渡邉部会長 渡部委員さんと今野委員さんをお願いします。

佐藤産業振興課長 次回以降の部会の日程ですが、8日は皆さん都合が良いという事でしたので、午後1時30分から3時30分でお願いします。

渡邉部会長 10月8日ですね。

佐藤産業振興課長 11月12日までまとめてくださいと先ほど話がありましたので、その後については後程調整させていただきたいと思います。

 今回は計画案の中身について審議いただきたいと思います。

阿部委員 皆さん大変ご苦労さまでございました。大変活発にご意見いただき感謝申し上げます。今後もぜひ前向きに意見を出していただきまして、町が元気になって幸せな笑顔があれば良いと思いますので、楽しくお話しできればと思っております。今後よろしくお願いいたします。

 大変お疲れ様でした。

審議終了

- 午後4時24分 終了 -

上記会議内容に相違ないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員 産業振興部会 部会長

産業振興部会 委員